

豊かな地域療育を考える連絡会 報告とお知らせ

第195回定例会を11月17日(木)に実施しました。Zoomによるオンライン定例会で全体会の参加者は37名でした。後半は参加者が少し減りましたが、5つの分野別部会に分かれてオンラインで話し合いました。

1. ミニ学習会

川崎市子ども発達・相談センター「キッズサポートたま」「キッズサポートみやまえ」について

講師：小林尚子氏(キッズサポートたま 係長)

藤本明國氏(児童発達支援『アエルたま』児童発達支援管理責任者)

○センターの場所

宮前、多摩は2022年10月1日からスタートした。キッズサポートみやまえは田園都市線宮崎台駅から徒歩10分、宮前平駅からは徒歩20分。キッズサポートたまは小田急線生田駅から徒歩10分の住宅街の中にある。南部は一般の商業施設のビル内にあるが、たまは6LDKの一軒家で他とは異色の運営場所になっている。

○開設からの状況

相談チームの10月、11月の状況について。昨年開設された南部では10月、11月は当初から相談が殺到。昨年2ヶ月で78件だった。こちらは80件と同等のイメージ。想定外だったのが内訳として相談件数が、2:1に偏ったこと。みやまえが2、たまが1。みやまえが想定外に多く、たまは少ないという感じ。また学齢児の相談が3割を越えているということ。現在相談がかなり混み合っており、初めての面談までなかなか時間がかかる。日時を選ばなければ3週間ぐらい待てば、11月は体調不良でのキャンセルが多く、日程の穴埋めなどで混み合っている状況。相談に来る子どもの状況は発達課題を抱えた重いお子さんが多い。療育センターやキッズサポートに通う必要のあるお子さんの相談が多い。

○キッズサポートたまの体制

南部とは違った特徴がある。多摩区に関しては北部療育センターと西部療育センターに分けて2カ所で行っている。

2. 子ども権利の日フォーラムについて

○事前の申し込みが100名近くあったが、当日は約半数ぐらいの参加だった。参加者はほぼ保護者。

講師をお願いしたでんでん虫の栗原さんには、保護者の参加が多いことを考慮して下さって、内容についてスライド差し替え等直前まで協力いただいた。保護者に寄り添った家庭支援の在り方についてよいお話をしてくださった。アンケートはまだまとまっていないが周囲の身近なところからたいへんよかったという話をもらっている。わになろう会報な

○キッズサポートたま

一軒家としては大きい事業所としては手狭。通ってくる子どもは1日10名。午前5名、午後5名ずつ。場所が狭いので工夫をしながら利用を進めていきたい。専門の相談の人が受けて下さって児童発達支援が必要となった人に来てもらう。

児童発達は市の単独事業と法令事案。2~5歳児のクラスでは1クールが10日程度3ヶ月終了のプログラム。子どもとの関わり方を学ぶ保護者学習会なども開催。プログラムの終了後、(子どもの所属している)学校、幼稚園、保育園などへの地域訪問で担当の先生方と直に関わるようにして共有する。民間の事業所への関わりも持つ。

子育てサロンは1、2、3歳の子どもと保護者への遊び場の提供、保育士とワーカーが入って相談を受ける形。

学齢児グループはニーズや学齢の課題は幅広いのでどういう子を受け入れるか、人とのやり取りが難しい、学校では自信がないといった子の地域支援などを考えている。キッズサポートに通ってきた子のその後のフォローとして行っていく。専門支援の人と関わって、子どもが療育センターでの支援が必要だがその準備ができていない場合の二次相談なども行う。管理者はみやまえ、たまに1人ずつ配置。児発、保育士、指導員は各2名ずつ配置。地域の幼稚園など機関連携、入学などに関する学校とのやり取りはソーシャルワーカーが担当する。

どもフォーラムの内容について触れられているので、参加されていない人は目を通して欲しい。

林さんの報告については、林さんのお人柄により際だったおもしろい話だった。視聴していた保護者にとっては入所施設の話は身近なものではないが、子どもへの接し方やショートステイの話などがあり、また家庭でできるような対応のヒントがあったり、そういう話を組み込んでいただいたので身近に感じてもらえたのかなと思う。 <以下省略>

3. 事務局より報告・お知らせ

4. 近況報告

(紙面の都合で略)

196回定例会は 12月15日(木) 9:30~11:30 (全面リモートで実施予定)

参加申込および問い合わせは、事務局044-455-7468 七川まで